

平成21年8月9日 (6)

企業訪問

名古屋を拠点に事業展開

ボディコート・ジャパン社長

ジュリアン・ベイシヨア氏



熱処理加工世界最大手の英ボディコートが昨年三月、名古屋に日本法人ボディコート・ジャパン

(社長)ジュリアン・ベイシヨア氏、本社(名古屋)市西区牛島町六一名古屋ルーセントタワー四〇階を設立し、一年半が経過としている。ジュリアン社長にお話を伺った。

「需要が大きく期待でき、名古屋に本社を持つてきた。ボディコートは昨年日本に参入したが、日系企業との付き合いは長く、二十五年の歴史がある。日系企業の海外工場にサービスを提供しており、せっかくな海外での口座があるので、それを日本国内でも活用したい。海外で付き合いのある会社はほとんどが愛知県にある。

「日本への進出について。欧米企業が製造を中止し、特に航空宇宙業界は日系企業に製造を委託している。日系企業は、自動車のような量産品だけではなく、生産量の少ない航空宇宙関連部品や、得意分野の鉄道車両などの工業品において、どこよりも安く良いものをつくる。今後も海外メーカーの日本企業への製造委託が増えくると考えている。

「ボディコートについて。創業は八十六年前(一九三三年)、繊維関係の会社として設立。その後、欧州の繊維産業がアジアにシフトしていった。当時のボディコートはアジアでの存在感がなかったため、約三十年前に事業転換して今の熱処理加工にシフトした。

「現在の熱処理専用工場は、全世界二十八カ国で百九十一カ所、八千台の熱処理炉が稼働している。全世界では、四万社と取引をしている。日本でのターゲットは、自動車産業、航空機産業だけでなく、建設機械や金型、工作機械もターゲットとしている。アジアへは約四年前に進出し、中国二カ所、インド三カ所、タイとシンカポールに一カ所ずつ熱処理専用工場が稼働している。

「今後の展開は。昨年の創業時にボディコート本社のジョン・D・ハバード最高経営責任者(CEO)が、二〇一八年までに日本国内に十カ所の工場を稼働させ、また、二〇一〇年四月までに日本国内の第二工場を稼働させる、という二つの約束をした。今はまだ日本国内に工場は無いが、既に受託事業を実施しており、日本で受けた注文に中国をはじめとするアジアの工場が中心となって対応している。日本国内に熱処理業者は約四百社あり、提携先を現在探している。

「ボディコートは、日本に進出してはまた浅いが海外での日系企業との取引の実績もあり、日本の製造業のグローバル化とあいまって、今後の成長が期待される。

名古屋機工新聞 logo and title in a decorative frame.

発行所 〒450-0002 名古屋市中村区名駅三丁目17番30号 名古屋機工新聞社 電話(052)505-1231代 FAX:052)586-4789 掲載料年8,000円 半年4,500円 一部250円 振替口座番号 00820-8-40585 JRL http://www.kikou.co.jp